令和８年度小松市立荒屋小学校　学校評価　１（計画）

めざす児童生徒像

「じ」:自分で考え行動する。
・自分なりの考えを持つ。
・よく考え判断する。
・よいと思ったことは進んで行う。

「も」:もっと良くなろうとする。
・より良いものを目指す。
・粘り強く最後まであきらめずやりぬく。

「と」:共に学ぶ　思いやる。
・自分も周りの人も大切にする。
・対話し，多様な考えから学ぶ。
・感謝の気持ちを持つ。

※児童生徒結果－教員結果･保護者結果

	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
学校重点項目（学校で設定）	自己肯定感の向上	全項目８０%以上達成		「子どもが主役」の学校づくりを目指し教育活動を行っている	100	98.4	95	-1.2	全項目８０%以上達成している。学校すべての活動が校長ビジョンにそって行われていることが要因と考える。先生方の意識の高さと指導が結果となっている。 【と】児童は，お互いの考えや思いを大切にしながら活動しようとしているについては、児童と教員の結果に差がある。	２学期も校長ビジョンに沿って先生方や子どもたちとベクトルをそろえて教育活動を行っていく。また、２学期は，お互いの考えや思いを大切にしながら、活動している子ども達一人一人の言動や行動を丁寧に見取っていく。
				【じ】児童は，自分で考え行動している。	100	96.8	91	-4		
				【も】児童は，よりよくなろうと努力している。	100	98.4	91	-1.2		
				【と】児童は，お互いの考えや思いを大切にしながら活動しようとしている。	80	100	91	19		
				集計	95	98.4	92	3.15		

	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目					達成状況の分析	改善策
	働き方や業務の改善	全項目８０%以上達成	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	60				80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減を意識しているが先生方の多忙感は大きい。４か月平均残業時間は35時間50分であった。特に時間外在校等時間を月平均30時間以内にすることは１学期は困難だった。	放課後に学級事務を行える時間を確保し、その時間は会議などは入れない。 留守番電話を勤務時間終了後から翌朝までとし、土日・祝日・閉庁日は終日留守番電話設定にする。 委員会・クラブのない日の午後をカットし、学級事務の時間とする。
			②	学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100					
			③	気軽に相談できる環境が整っている。	100					
			④	時間外在校等時間の月平均30時間以内にする。	19					

	項目		目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	①②ともに 中間…８５%以上 年度末…９０%以上	①	研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、具体的な取組を共通実践している。	100				①②とも中間…８５%以上の目標をこえ、１００%の達成率となった。理由としては全職員で学校研究を進めることができたからだと考える。 ７月９日（木）には京都女子大学の水戸部先生をお迎えし、国語科の授業研究を行い、講演もしていただいた。 国語科以外でも一人一人の自律した学びを推進するため、各学年で授業構想を工夫し、授業改善を行うことができている。	２学期も研究主題に沿って学校研究を進めていく。なお、自律した学び手の育成のために子どもたちが「自ら学び力をつける授業づくり」を行っていく。
				②	授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100					
					集計	100					
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①②⑤ともに 中間…８５%以上 年度末…９０%以上	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	90	96		6	①②⑤ともに中間…８５%以上の目標を超え、９０%以上に達した。 ①の「児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」という項目については、各学年で課題提示を工夫したり、選択課題などを与えて授業を工夫することができた。 ⑤の「児童生徒は、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、友達と考えを共有したり比べたりすることができている」に関しては、学習用端末を使っての授業展開を先生方一人一人が有効に使うために授業を工夫することができた。 ③は職員と児童の数値の差が大きかった。職員と児童の間で意識の差があると考えられる。	２学期も、１学期と同様に５つの授業の視点を大切に授業を進めていく。 また、発達段階に応じた授業改善も進め、児童一人一人の充実した学びになるよう学校全体で「主体的・対話的で深い学び」を推進していく。 さらに２学期は電子黒板も教室に入るので、電子黒板の有効的な使用の仕方を模索し、児童が友達と考えを共有したり比べたりすることができるようにしていく。 発表する場面では、職員が考えるモデルの姿を児童に示し、目指す姿を共有する。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている。	100	91.9		-8.1		
				③	児童生徒は、自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	70	94.4		24.4		
				④	児童生徒は、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	100	95.2		-4.8		
				⑤	児童生徒は、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、友達と考えを共有したり比べたりすることができている。	90	94.4		4.4		
					集計	90.0	94.4		4.4		
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③が 中間・・・８５%以上 年度末・・９０%以上	①	指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100.0				どの学年も国語と行事、行事と総合（生活）、道徳と行事など様々な教科で教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。そのことで充実した学習が進められている。また、地域の実態に合った学習も盛んにおこなった。	２学期も、１学期と同様に４つの授業の視点を大切に授業を進めていく。 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有していく必要性も感じるので夏休みに板津地区小中連携の際に話し合いを行い２学期に生かしていく。
				②	児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している。	100.0					
				③	全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0					
				④	校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	88.0					
					集計	97.0					
			①②ともに９０%以上	①	児童生徒は、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	100	99		-1	①②ともに中間目標９０%以上の　目標を超えることができた。本校は児童生徒は、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができている。	２学期も、１学期と同様に学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めていく。また、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫する児童も育てていく。
				②	児童生徒は、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができている。	100	96.9		-3.1		
					集計	100	97.95		-2.05		